

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・〇七

7・20国鉄分割 民営化絶対反対 全国鉄労働者集会へ

中曽根は、国鉄を突破口とした「総決算」攻撃にうつつでようとしている。国鉄分割・民営化の強行と三選・任期延長の野望をむき出しにし、同日選を強行した中曽根は、さらに凶暴となり国鉄労働者に襲いかかってくることは必至である。まさに事態は切迫している。だが、中曽根の先兵・動労革マル松崎の大裏切りによる国鉄労働運動の解体・マル生化策動、そして国労中央の屈服・無方針のもとで国鉄労働者は孤立と分断を強いられている。この状態を打ち破らない限り勝利はない。いま決起すれば勝利できる。そのための第一歩である「七・二〇国鉄分割・民営化絶対反対 全国鉄労働者集会」に総結集せよ。

もはやガマン ならない
われわれ国鉄労働者にとって国鉄分割・民営化攻撃がもはやガマンのならないところまできている。

六月三〇日には「希望退職」という名の二万人解雇攻撃、七月一日には「人材活用センター」への首切り選別Ⅱ特定攻撃が開始された。七月中には八万人合理化Ⅱ「一一月ダイ改」計画が提案されようとしている。既に「人材活用センター」へ役員・活動家が闘う職場からパージされている。この攻撃を許すならば全国の職場から役員・活動家は一掃され、組合は体無さない状態となり、労働者は一人ひとり分断されてしまうのだ。

裏切り者・松崎を許すな

六月二十九日、鉄労・管理職のマル生グループと動労革マル・松崎らによるマル生大会が開催された。中曽根・三塚・亀井がメッセージをよせ、杉浦に「国鉄始まって以来の壮挙」といわせしめ、動労・鉄労・マル生グループが改革へ向けての「決意」を競い合い、松崎などは「ここまできたら合理化はどんどんやる必要がある。国労がなんと言おうとやりやいんだ」「総裁と協力し合ってやって行

く」と言いなし「改革の意志を力に、力で妨害者を壊滅へ」と短冊に書き印したのだ。国労と動労千葉破壊の先頭にたつと誓約したのだ。

いまこそ怒りの総決起・総反撃に中央指導部の無方針のもとで、こうした当局や松崎の攻撃にさらされている国労組合員は、いまこうした状態を打破する総反撃にうつつでようとしている。国労だけではない。動労においても「雇用」を守れないどころか動労そのものが解体されようとしている現実、怒りが噴き出している。

裏切り者・松崎と対決し、屈服を重ねる国労中央指導部をのりこえてたたかいに決起するならば国鉄分割・民営化阻止のたたかいはかならず勝利できる。すべてのたたかう国鉄労働者は七・二〇集会に総結集せよ。ともに闘おう。



動労大会労働一体の国鉄改革を訴える国鉄の杉浦総裁10日、神奈川県相模原町で

首切り執行人・三塚が祝辞をよみ、その先兵・杉浦を「招待」し、そこで国労解体を誓約した松崎